

6. JR中央線の高架化に伴う沿線地域の景観・環境整備

グリーンネックレス構想検討準備事務局
(東京都三鷹市他)

I. 活動の背景と目的

■市民が気付いた「鉄道の連続立体交差事業（高架化）を契機としたまちづくり」の必要性—「環境共生鉄道」として

雑木林に代表される「武蔵野」のイメージを残す東京都心近郊の住宅地で始まったJR中央線三鷹～立川間（約13.1km）の連続立体交差事業（高架化と4駅の改築）。JR中央線は1999年に前身の甲武鉄道の開通から110周年を迎え、今回の事業区間内にある沿線6市合計の人口は約73万人（1999年）、事業区間内8駅（三鷹・武蔵境・東小金井・武蔵小金井・国分寺・西国分寺・国立・立川）合計の乗車数は約52万人／日（1993年現在）で、その多くが都心等への通勤・通学・買い物などに利用しています。一方、地元では朝のラッシュ時1時間で約30秒しか開かない踏切もあり、踏切解消は長年の懸案でした。

「踏切さえなくなればそれでいいの？無機質なコンクリート高架橋が万里の長城のように一直線に続くんだよ？高架橋を生け垣のように緑で包み込んできれいにしようよ。」

1999年5月、約20年間この地域を見続けてきた地域雑誌『武蔵野』から』を発行する小柄な女性、野口由紀子さんが、市民参加のまちづくりを提唱する市民団体「小金井・まちづくりの会」（1998年発足。会員約40名）に3ヶ月続けて根気強く、月例定例会に出向き、協力を持ちかけてきました。

それまで高架化について深く考えてこなかった会のメンバーも、徐々に高架化によって街がどのような影響を受けるのか、取り組むべき活動のイメージを膨らませていきました。

「中央線を、近くを流れる玉川上水や国分寺崖線、野川同様、市民に親しまれる景観や環境の軸『環境共生鉄道』に仕立てあげよう。」

これがグリーンネックレスの活動の始まりです。「グリーンネックレス」は川や道路や森をつなぎながら街なかを緑の帯でつなぐボストン（アメリカ）の緑地システム「エメラルドネックレス計画」に因んだ名前です。



線路両側に緑が残る中央線の現在

II. 活動の内容

グリーンネックレスではこの1年間、以下のような活動を行ってきました。

1. 市民意識啓発イベント「グリーンネックレス公開サミット」の開催

2.重点テーマ別の検討（ワークショップの開催等）を踏まえた「グリーンネックレス構想」の作成（テーマ：「高架橋とその周辺」、「駅文化」、「環境システム」など）

3.1万人アンケートの実施

4.6市行政との連携づくり（6市行政との連絡会の開催）

活動の体制は、現在行われている高架化事業は6市域という広域にまたがる話であることから、市内で活動が完結している「小金井・まちづくりの会」という枠を越え、2000年8月から他の市民や市民活動団体などに参加を呼びかけながら、新たな活動を立ち上げました。

■沿線6市長を集めた「公開サミット」の開催—行政との協働を沿線市民にアピール

グリーンネックレス最初の活動は、沿線市民と行政に高架化を契機としたまちづくりの必要性を知ってもらうための意識啓発イベントを開催すべく、三鷹・武蔵野・小金井・国分寺・国立・立川の6市長に直接話を持ちかけた結果、全市の賛同を得て2000年5月27日、国分寺Lホールにて市民と行政の平場の会議「グリーンネックレス 公開サミット」を開催しました（参加約250名。コーディネーターに東京農業大学長の進士五十八氏）。



6市長、約250名の市民が参加した「公開サミット」全景

午前の部は「市民会議」と称し、23の市民団体と協力して各団体の展示紹介や意見交換、沿線地域のスライド紹介を行いました。午後の部は、まず東京都建設局の担当課長に高架化事業の紹介、鉄道事業者のJR東日本八王子支社企画室長からは、JR東日本の環境への取り組みについての紹介をしていただきました。コーディネーターの進士五十八東京農業大学長に、「計画的に緑をつくるということ」をテーマに本活動の意義深さについて話していただきました。

各市長からは、連続立体交差事業への提案や問題提起などを含め、各市の特徴やまちづくりに対する意欲が示されるとともに、市民活動に対する期待と責任の重さをユーモアあふれる発言を織り交ぜながら語っていただきました。

『踏み切り渋滞解消に向けた沿線地域30年の努力』の結果、連続立体交差事業があり、これを成功させないと何も始まらない」という立川市長の話は、このグリーンネックレス構想の大前提となるものです。また、国立市長の「景観を考えてつくられたまちの成り立ちをくみとり、これらを守るだけでなく、さらに『新たなグリーンライン』に」という話や、国分寺市長の「鉄道沿線からのびる豊かな自然やみどりをネットワークさせる」からは、鉄道部分にとどまらずに広い視野をもって街との関係について取り組もうという強いメッセージが感じられました。三鷹市長からは「責任ある市民参加」の必要性、小金井市長からは「高架化を契機に地域の潜在能力を顕在化させる」と

ということが訴えられました。

しかし、今後の課題の一つには進士先生が言われたように、縦割りに分割された行政が「グリーンネックレス」というものをどう取り扱っていくかということがあげられます。

本公開サミットは市民が主催して「行政参加」を促したのですが、これをきっかけに行政としても施策として都・沿線6市さらには鉄道会社が連携してまちづくりに取り組んでいただくことが第一に必要です。そして、「市民は言いっぱなしでよいのか？」という三鷹市長の発言にあるように、市民によるまちづくりの発信地としても頑張る必要があります。

「どうやって6市連携のまちづくりを実現させるか？」進士先生は「ネックレスには二種類ある。各市の共通点で結ぶものと異なったもので結ぶものとこのあたりにヒントがあるものと考えられます。また経済的な問題も含めた武蔵野市長が指摘された「早くから募金しても息切れする。多様な市民の意見をいかにまとめるか？極論だけいっても難しい。」という言葉はわれわれがすぐに直面しそうな課題を示唆していただきました。

以上、様々な投げかけをしていただき、最後に本活動へのエールをおくる色紙を描いていただきました。

■「1万人アンケート」の実施

「あなたも、武蔵野の新しい景観づくりに参加しませんか？」沿線市民に広く活動を知っていただき、高架化に対して1万通のアンケートを作成、FAXやインターネットでもアンケートを募集しています。この1年間では約200通のアンケートを集まりました。

「高架化する中央線にどのようなイメージを持たせるか？」1万人規模のアンケート活動を展開中です。

是非ご協力下さい。

■「グリーンネックレス構想」の作成—市民提案の構想づくり

3つの活動理念、7つの取り組みテーマ、1万粒のストーリーから成るグリーンネックレス構想

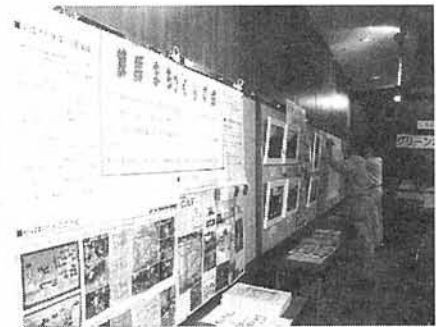
5月のサミット後、「高架橋とその周辺」「駅文化」「環境システム」など毎月検討する重点テーマを決めて、ワークショップを開催してきました。

「具体的なデザインに入るよりも、まちづくりをするに当たっての取り組み姿勢やスタンスをしっかりとすること、行政との連携のしくみをつくることの必要性」といったことが多くの参加者から寄せられました。

1年間の活動の結果、以下のようにグリーンネックレスの姿勢・考え方を構想として整理しました。



勢揃いした沿線6市長
左から青木立川市長、上原国立市長、
山崎国分寺市長、稲葉小金井市長、
土屋武蔵野市長、安田三鷹市長



公開サミット参加団体による展示

※公開サミットの模様は、「グリーンネックレス公開サミット報告書」(A4版51頁)としてまとめてあります。また、地元ケーブルテレビ3社協同で公式記録ビデオ(60分)も制作していただきました。

報告書ご希望の方は郵便振替で。

口座番号：00100-3-538237、
グリーンネックレス宛、1000円
(送料込み)

まちづくり大研究(グリーンネックレス構想)
一万人アンケート

JR中央線が開通して今年で111年になります。
三鷹・立川間が高架化される百年規模の大事業を機に、
新しい武蔵野の景観づくりに立ち合いませんか。

- あなたの利用駅(下記に○をつけてください)
三鷹駅、武蔵野駅、東小金井駅、武蔵小金井駅、国分寺駅、
西国分寺駅、国立駅、立川駅、その他()
- あなたの好きな駅。とその理由
- 駅周辺に欲しい施設
- 高架化による景観について。高架下の利用について
- 鉄道モールについての希望
緑化 温室 雨水利用 自転車路 スポーツレーン 緑道
雑居・防災・エコシステム 街の案内所 工房 貸スタジオ
青空市場 駐輪・駐車場 その他()

フリカネ _____ 年齢 _____ 男・女 _____
名前 _____ 職業 _____
住所 〒 _____
TEL FAX E-mail _____

1万人アンケート

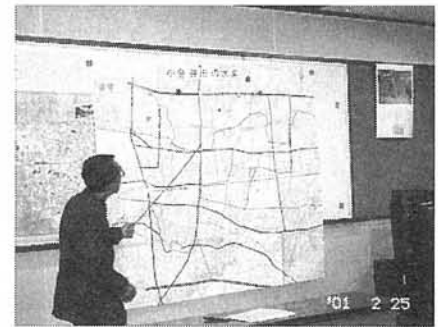
[3つの活動理念]

- 「環境共生鉄道の創造」
- 「武蔵野の大地にねざす」
- 「まちづくりのネットワーク」

[7つの取り組みテーマ]

<今後実践・検証しながら詳細にとりくんでいくテーマ>

- (1) 高架橋の環境システム
(自然エネルギーの活用、ITの活用可能性等)
- (2) 高架橋周辺の景観
(高架橋・側道の断面構成・修景)
- (3) 中央線沿線駅文化圏
(駅前空間のあり方、シンボルツリー、バリアフリー)
- (4) 農を活かすまちづくり
(緑《苗木など》の流通、作物の流通)
- (5) ひとみち、みずみち、みどりみち
(様々な地域固有の「みち」の網の目ネットワーク)
- (6) まちの新たな魅力づくり
(活力創出、地域振興)
- (7) 防災ネットワーク
(省エネ照明、水の確保、人・避難路ネットワーク等)



高架化する中央線にふさわしい
ワークショップ
(小金井みどりフォーラムとの共催)

[1万粒のストーリー]

沿線市民の夢を出発点に構成される、市民参加で多様な生活像を集成する。

・「1万人アンケート」の集成（引き続き募集中）

とりあえず上記のような形を整えましたが、今後も、引き続き多くの市民と意見を交わしながら、理念の実現に向け、柔軟に軌道修正も行っていきます。

■6市連絡会の開催

5月のサミット後に各市にグリーンネックレスの活動に対する窓口となる担当者を沿線6市自治体に設けていただき、2000年12月26日、小金井市役所にて、各市担当者が一堂に会する会合を持ちました。

市民と行政の協働、6市連携のまちづくりについて話あいましたが、「グリーンネックレスの活動範囲は幅広く、行政が即対応するのは難しい。持ち帰っては回答の繰り返しになる」と言ったことや、「行政と協働を求めるものがもっと具体化すれば対応も検討しやすい。」と言った意見が出ました。

2001年3月をめどに市民側が構想をまとめるので、これをもとに今後も連絡会をもつように調整していくという方向となり、今後もより具体的に6市行政が連携できる体制を整えて行きたいと考えています。

III. 活動の効果及び今後の課題

1年間の活動の結果、以下の事柄が成果としてあげられます。

■効果

- ・景観や緑化という表面的なものではなく、生活や自然の環境に対する考えを深め、市民と行政の議論の場づくりの必要性を共有できたこと
- ・「東西・南北にまちをつなぐこと」：鉄道縦断部を「まちかど」と捉え、まちをつなぐために「ひとみち、みずみち、みどりみち」がキーとなることが見えてきたこと。
- ・一つの街にとどまらない、市境という垣根を越えた活動や意見交換が市民・行政にもできたこと。

■今後の課題

- ・情報発信の必要性：「高架化事業の全貌を沿線市民は知らされていない」。身体障害者への動線案内はもとより、改築される駅舎や高架橋の設計に対する情報が市民は知らされていない状況にあるため、情報を共有するために発信していく活動にも力を入れる必要がでてきたこと。しかも市民に分かりやすい表現で行うこと。
- ・J Rとの「話し合いの場づくり」：鉄道事業者J R東日本とのまちづくりの接点を見出すこと。通常、画一的と称されるJ Rの標準設計に対して、鉄道利用者の声や地域性を設計や運営に反映させるため、双方のメリットとなるまちづくりのアプローチ。
- ・行政との連絡会を軌道に乗せること：取り扱うテーマが大きいため「未経験な6市連携のまちづくり」を定着させること。今後市民と行政のパイプ役をめざすグリーンネックレスの力量が問われる。より確固とした体制づくりを行う必要がでてきたこと。
- ・「中央線の駅文化」をどのように形成させていくかなど、より具体的な提案づくり。

■今後の活動

グリーンネックレスの活動はさらに続きます。幸い2001年度も引き続き助成金を受けることができ、2001年度は本構想を裏付けるための具体的な調査や実験活動も行っていきます。夏にはまちの実験場としての「まちかど環境花壇づくり」、秋には沿線の行政・大学とも連携して参加型イベント「市民学園祭（仮称）」（2001年10月28日、武蔵野スイングホール）の開催を予定しています。



仮線工事が始まった東小金井駅周辺